

拡張 DM エディタ バージョン 2.22 更新記録

2009/01/03
有限会社ジオ・コーチ・システムズ
<http://www.geocoach.co.jp/>
info@geocoach.co.jp

1. ネットワークチェック

[チェック]-[ネットワークチェック]の「端点間の隙間(3D)」に「隙間の最小値(m)」を追加しました。隙間の距離が指定した最小値・最大値の間にあるケースを検出できるようにしました。

2. 等高線チェック

[チェック]-[等高線チェック]の「等高線の端点間の隙間」に「隙間の最小値(m)」を追加しました。隙間の距離が指定した最小値・最大値の間にあるケースを検出できるようにしました。

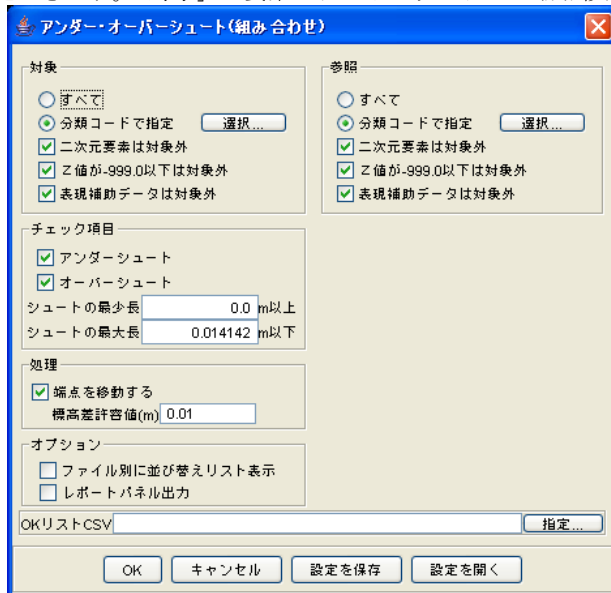
3. 交差チェック

[チェック]-[交差チェック]の「点列の端点での交差は対象外」に「端点までの距離」を追加しました。微小なオーバーシュートをエラーとしてリストアップしたくないケースに対応しました。

4. アンダー・オーバーシュート(組み合わせ)

新メニュー[チェック]-[アンダー・オーバーシュート(組み合わせ)]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

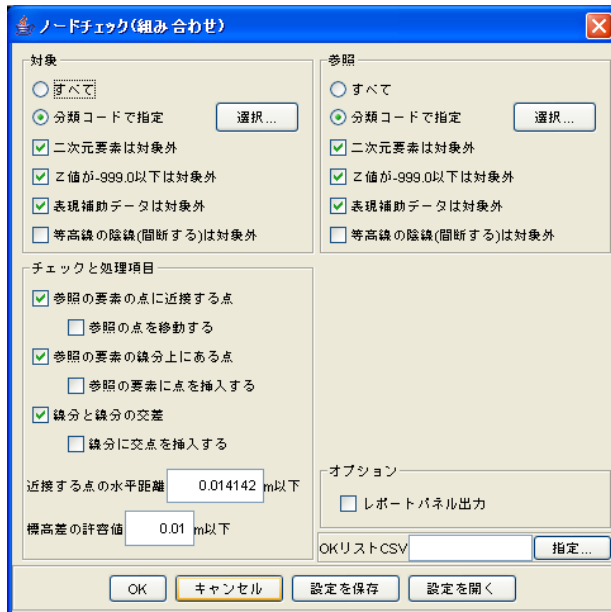
上記「アンダー・オーバーシュート」と同じ処理内容ですが、対象(検査する要素)と参照(参照する要素)を別々に分類コードで指定できます。「対象」の要素がリストアップおよび端点移動の対象です。



5. ノードチェック(組み合わせ)

新メニュー[チェック]-[ノードチェック(組み合わせ)]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

上記ノードチェックについて、リストアップする要素と、参照する要素を別々に分類コードで指定できます。



【対象】 リストアップする要素について全てチェックするか、分類コード別で指定します。必ずひとつ以上の分類コードを選択してください。上図の B1-B2-B3 の要素です。

【参照】 参照する要素について全てチェックするか、分類コード別で指定します。必ずひとつ以上の分類コードを選択してください。上図の A1-A2 の要素です。

【等高線の陰線(間断する)は対象外】 間断区分が設定された等高線をチェック対象としません。

【二次要素は対象外】 二次要素はチェックの対象としません

【Z値が-999.0以下は対象外】 三次元要素で、標高値が-999.0以下の要素は対象としません。

【表現補助データは対象外】 図形区分が表現補助データとなっている要素は参照としません。

【参照の要素の点に近接する点】 XY平面で指定した距離以内で、かつ、Z方向に[標高差許容値]以内で参照の要素の点と近接している対象の点をリストアップします。

【参照の点を移動する】 リストアップした対象の点の座標に参照の点を移動して、座標を一致させます。

【参照の要素の線分上にある点】 上図の点 B2 に該当する点をリストアップします。XY平面では地図の精度程度、Z方向に[標高差許容値]以内で他の要素の線分上にある点が対象です。

【参照の要素に点を挿入する】 リストアップして点について、参照の要素に同じ座標の点を挿入します。

【線分と線分の交差】 線分と線分がXY平面上で交差していて、かつ両方の線分上での交点のZ値の差が「標高差の許容値」より小さい場合をリストアップします。

【線分に交点を挿入する】 上記の条件を満たす線分の交点について、対象と参照の双方の線分に点を挿入します。交点のZ値は両方の線分でのZ値の平均値を使いますが、片側が等高線の場合、等高線の標高値を使います。両方等高線の場合、その旨をチェックリストで報告し、それぞれの等高線の標高値で交点を挿入します。